

平成17年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者
(五十音順)

〔個人〕

辻谷 達雄 (奈良県吉野郡川上村)

〔団体〕

大阪府森林組合 (大阪府大阪市)
株式会社片木アルミニウム製作所 大山工場 (鳥取県西伯郡大山町)
鎌手ふるさとおこし推進協議会 (島根県益田市)
佐伯広域森林組合 (大分県佐伯市)
さがら花の会 (静岡県榛原郡相良町)
土橋みどりの少年団 (愛知県豊田市)
特定非営利活動法人埼玉森林サポータークラブ (埼玉県さいたま市)
仲町福祉の里推進会議 (山形県西置賜郡白鷹町)
名川町立 斗賀児童館母親クラブ (青森県三戸郡名川町)
西川口東口商店振興会 (埼玉県川口市)
鼻高町をきれいにする会 (群馬県高崎市)
日向市ふるさとの自然を守る会 (宮崎県日向市)
本川地区老人クラブ連合会 (広島県広島市)
Y K K A P 株式会社 東北事業所 (宮城県志田郡三本木町)

〔学校〕

岐阜県立飛騨高山高等学校 (岐阜県高山市)
熊本市立東野中学校 (熊本県熊本市)
酒田市立十坂小学校 (山形県酒田市)
瀬戸内町立西阿室小学校 (鹿児島県大島郡瀬戸内町)
長岡市立桂小学校 (新潟県長岡市)

〔地方公共団体〕

上越市安塚区 (新潟県上越市)
鳴子町 (宮城県玉造郡鳴子町)
浜松市引佐地域自治区 (静岡県浜松市)
山川町 (鹿児島県揖宿郡山川町)

[個人]

ふ り が な 氏 名	つじたに たつお 辻谷 達雄
住 所	奈良県吉野郡川上村
功績の概要	同氏は、吉野林業の中心地川上村に育った生粋の林業人であり、造林作業を始めとした様々な育林技術を習得し、地域林業リーダー指導者として森林の育成に大きく貢献する一方、平成7年には自然観察指導員として、村のイベント等に積極的に参加し自然観察の指導にあたってきた。平成9年には自然観察や森林づくり体験を楽しんでもらうことを目的として「山の学校 達っちゃんクラブ」を開校し、年々評判を呼び、平成15年度は年14回開催された。また、県内外の都会の子供たちに、森林学習活動の場として自然との触れ合う楽しさを教えながら、森林づくりと緑化意識の高揚に貢献している。 このほか、林学的な理論を勉強し、平成3年には林業技士の資格を習得し、現在技術研修等の講師として活躍している。また、県初の森林ボランティア団体「グリーンボランティアならクラブ」の設立に寄与し、県内で最も大きな森林ボランティア団体として名実共に活躍する団体として育て上げ、森林ボランティアの育成に大きな成果を上げた。

[団 体]

ふ り が な 名 称	おおさかふしんりんくみあい 大阪府森林組合
所 在 地	大阪府大阪市
代 表 者	代表理事組合長 中谷 卓司
功績の概要	同森林組合では府内森林の水源かん養機能の強化を目的として、長年にわたり広域にわたる水源かん養保安林の指定に協力している。 豊能支店管内において、平成3年度以降、府営・補助造林事業を実施するとともに、平成8年からは能勢町森林組合が積み立てた“健全林育成積立金”からの助成交付による健全林育成事業を創設し、能勢町内の森林の保育、保全に努めることにより、水源林等の整備に貢献している。また、平成13年からはこれら事業を府全域で実施し、府内の森林の適正な管理を通じて活力ある森林の造成に大きな力となっている。 一方、自然環境に恵まれた森林の保全を目的とする「大阪府立北摂自然公園」指定に際し、組織並びに組合員をあげて協力するとともに関係者への働きかけにも尽力し、広域かつ早期の同公園指定に寄与した。 また、府が平成12～14年度に実施した能勢町域での住民参加型生活環境保全林整備事業の実施に際し、「地黄住民参加森づくり協議会」の事務局を担当するなど、積極的に住民参加による森づくりの支援に努めている。

[団 体]

ふ り が な 名 称	かぶしかいしゃ かたぎ せいさくしょ だいせんこうじょう 株式会社片木アルミニウム製作所 大山工場
所 在 地	鳥取県西伯郡大山町
代 表 者	取締役工場長 片木 威
功績の概要	同工場は、「公園の中の工場」という理念に基づき、緑地の配置を原木を残しながら工場を囲むように整備するなど、積極的な工場緑化を推進し、周囲の自然環境との調和を図っている。工場敷地内には約1.5haの自然公園を配置し、同公園内に茶室を設けて無料開放しており、年間を通じて近隣住民の交流の場として親しまれている。一方、町道に面した工場敷地にサクラを植栽したところ、町も同様に道路沿いにサクラを植栽するなど、町と一体となったサクラ並木の整備による美観形成に一役買っており、同工場ではサクラ並木の延長も計画している。 経済産業大臣表彰受賞後の平成14年以降も、敷地面積の50%以上を占める緑地の維持に努めるとともに、職員の緑化や清掃活動への意識が高まり、緑化推進や環境活動により積極的に取り組んでいる。また、当地域は突風による樹木への被害が多いが、随時植替えや追木等を行うなど、厳しい立地条件の下で緑地の維持に努めている。 このように、同工場の諸活動は地域コミュニティの活性化や景観形成に大きく貢献している。

[団 体]

ふ り が な 名 称	か ま て す い し ん き ょ う ぎ かい 鎌手ふるさとおこし推進協議会
所 在 地	島根県益田市
代 表 者	会長 齊藤 朗
功績の概要	同会の活動は平成2年「水仙の花咲く里づくり」を目的に始まり、当初は有志のみであった活動も今では地区全戸にその規模を広げている。 平成3年の活動当初より国道9号沿い約700mにわたりスイセンの球根の植付けを行い、見ごろを迎える時期には自動車で訪れる観光客や市民に喜ばれている。 また、スイセン栽培地の開墾へと規模を拡大し、「水仙の里」の積極的PRにも取り組んでいる。その一つが石見空港でのスイセンのプレゼントであり、空港利用客に大変喜ばれ、さらに、平成13年からは、スイセンの開花にあわせたロードレース大会を開催するなど地域振興への貢献もみられる。毎年約10a(1,000㎡)の開墾により、スイセン栽培面積は1.5ha(15,000㎡)までに 広がり、球根の植付け、草刈り等の作業には地域の老人クラブや小中学生も積極的に加わり行われている。こうした世代を超えた地区全体での取組の結果、鎌手のスイセンは周辺の景勝とも相まって、遠方よりもその花を楽しむ人々が訪れるほどになっている。

[団 体]

ふ り が な 名 称	さいき こういきしんりんくみあい 佐伯広域森林組合
所 在 地	大分県佐伯市
代 表 者	代表理事組合長 長田 助勝
功績の概要	同森林組合では、平成6年から都市住民に森林・林業への理解を深めるとともに林業労働力として新規参入を促進するため、森林ボランティア活動の取組を行っている。 取組当初のフィールドは佐伯市を中心とした範囲であったが、活動の成熟に伴い管内9市町村が参画し、平成6年から16年にかけて、佐伯・南郡地域の33か所で延べ5,642名が参加するなど広域的な取組へと成長している。 また、森づくり活動と併せ、林業懇談会や、地域産物の試食会を通じた地域との交流会を開催し、都市と山村住民の交流促進に力を注いでいる。 このほか、平成14年からは、県内企業の参画を呼びかけ、「企業による森づくりボランティア」の育成にも尽力し、平成15年には「ふれあいの森づくり」で国土緑化推進機構会長賞を受賞している。

[団 体]

ふ り が な 名 称	はな かい さがら花の会
所 在 地	静岡県榛原郡相良町
代 表 者	会長 大石 玉枝
功績の概要	同会は、平成2年の設立当初は、13か所の花壇管理から活動が始まったが、以降、会員が空き地を耕すなどして管理花壇を増やし、現在は、町内の沿道、公民館、公園等に点在する23の花壇（約2,400㎡）を管理している。 花苗を種から育て、花壇に植え込み、毎日の水やり、花がら摘みと地道な活動をするなどしているかわら、静岡県主催の花壇コンクールなどでは数多くの賞を受賞している。 平成15年の静岡県で開催された第58回国民体育大会では、200個のプランターにサルビアを育苗して提供し、地元競技場を訪れる選手団や観客を花で歓迎した。 また、小学生に「花作りの楽しさ」、「自分で育てる喜び」を体験させるため、教材としてチューリップの球根を提供し、情操教育への協力をするなど、花を通じた様々な活動に取り組んでいる。 さらに、平成14年からは、「しずおかアダプトロードプログラム」に参加。花壇周辺道路の美化清掃にも積極的に取り組むなど、地域全体の環境緑化に多大な貢献をしている。

[団 体]

ふ り が な 氏 名	つちはし しょうねんだん 土橋みどりの少年団
所 在 地	愛知県豊田市
代 表 者	校長 赤井 俊郎
功績の概要	昭和63年結成の同団は、自動車の街・豊田市にあり、自然の緑が少ない地区の児童により構成されていることから、「緑を増やそう」「緑に親しもう」「緑と暮らそう」をテーマに様々な活動を実施している。 同団の特筆すべき点は、団員自らがどんぐりを集め、育てた苗木により緑化活動を実施していることである。地元では平成13年から自動車道法面での植樹を、また地震被災地である長野県王滝村に復旧用苗木の贈呈や現地での植樹を平成14年から実施している。 さらに平成16年から「愛・地球博」協賛事業「ハンド・イン・ハンド」(アジア各国で子供による植樹活動等を実施するプロジェクト)の募金を始めとする様々な活動に積極的に参加している。 同団は、地元においても、地域が一体となって整備と維持管理を行う花畑「土橋百花園」での活動を始めとする地道な緑化活動も数多く実施している。 同団の多彩で広範囲にわたる地域と一体となった活動は、多くのメディアにより取り上げられており、緑の情報発信源としても緑化の推進に大きく貢献している。

[団 体]

ふ り が な 氏 名	とくてい ひ えいり かつどうほうじんさいたましんりん 特定非営利活動法人埼玉森林サポータークラブ
所 在 地	埼玉県さいたま市
代 表 者	会長 横路 美喜緒
功績の概要	平成9年1月、森林整備のボランティア団体として発足した「彩の国森林サポータークラブ」は、埼玉県秩父郡東秩父村の槻川源流での植樹活動を皮切りに、年々、活動回数や活動エリア、参加人数を拡大充実してきた。 平成14年4月には、森林整備作業にとどまらず、普及啓発事業や上下流交流事業を行うため、「N P O 法人埼玉森林サポータークラブ」を設立し、体制を整えたところである。 平成16年度には、県内各地の山林や雑木林等で下刈、枝打ち、間伐などの森林整備活動を行った。また、ほかの森林ボランティアと連携した森林の安全作業研修の開催や、N T T ドコモ埼玉支店が行っている森づくり活動への技術支援など、精力的で幅広い活動を行っている。 さらに、平成17年度には、県との間で「森林づくり協定」を締結し、県有林を活動の場として森林整備や普及啓発事業を行うこととしている。 そのほか、県民参加の森づくりを広くアピールするため、緑の街頭募金への参加や、森林文化を伝える手法として講談を取り入れるなど、県内において先駆的な役割を果たしている。

[団 体]

ふ り が な 名 称	なかまちふくし さとすいしんかいぎ 仲町福祉の里推進会議
所 在 地	山形県西置賜郡白鷹町
代 表 者	会長 楨 寅男
功績の概要	同団体は、昭和58年9月に「福祉の町づくり」を推進するための地域活動を開始したが、昭和60年度からは「住みよい町づくりのために今後何をすべきか」を考え、福祉の町づくりだけでなく、環境美化活動や奉仕活動、愛の声掛け活動など多方面の取組へと団体の活動を積極的に展開している。 特に環境美化活動においては、毎年4月から10月までの毎月、定期的に約300人が参加して、国道287号線沿い1.1kmと町道3.9kmに約60本植樹されている町の花「コブシの木」の根元の除草を行うとともに、道路沿いの花壇約600㎡にコスモスの種やマリーゴールドなどの花苗を植栽し、日常的な手入れを行い、道路を行き交うドライバーの目を楽しませている。更に路肩・法面の除草や路面・側溝の清掃を他の地区に先駆けて実施するなど、その活動は、近隣地区の模範となるとともに、道路の美化及び愛護精神の普及向上に貢献している。 平成13年度に国土交通大臣表彰を受賞して以降も、こうした活動に継続して取り組み、「自分たちの地区は自分たちで」という姿勢のもと、積極的な活動を展開している。

[団 体]

ふ り が な 名 称	ながわちようりつ と が じどうかん ははおや 名川町立 斗賀児童館母親クラブ
所 在 地	青森県三戸郡名川町
代 表 者	会長 出町 悦子
功績の概要	当クラブは、名川町内にある児童館の児童の母親達が会員となって作ったクラブである。 昭和51年の設立当初から、地域の環境美化・緑化運動の一環として、継続的に名川町の玄関ともいえる国道104号線沿いにある自動車避難場のゴミ拾い、草取り及び花壇の整備を行っている。 おもに、マリーゴールド、サルビアなど四季折々の花を植栽したり、また、アジサイの茎の剪定などの手入れを行っている。 この活動は、「斗賀地区を緑溢れる地区にしたい」という思いで、母親クラブ会員のアイデアで生まれ積極的に自らが切り開いた活動で、花壇の土づくりから始まり、植栽する花の苗の植栽、水やりなどの手入れ等をすべて自分たちで行っている。 基本的には、毎月第2、第4土曜日に会員が交代で活動を行っているが、日照り続きによって水分が足りない際には、その都度、タンクに水を汲み、会員のトラックに積み込み、水やりを行っている。 この活動により、町の各地区では、魅力的な花壇づくりに取り組む「花いっぱい運動」が展開され、町の緑化活動の先駆けとなっている。

[団 体]

ふ り が な 名 称	にしかわぐちひがしぐちしょうてんしんこうかい 西川口東 口商店振興会
所 在 地	埼玉県川口市
代 表 者	代表者 中村 茂
功績の概要	平成3年、行政による商店街の基盤整備にあわせ会員自らも工事費を一部負担し、商店街の環境美化と振興に本格的に取り組み始めた。近年、全国的に中心市街地の衰退化が問題となっているが、そうした早期の取組もあり、同商店街は潤いと賑わいに満ちた商店街として注目されている。 また、当初より続けられている商店街通り（700m）へのパンジー、ベゴニアなど年4回におよぶ花の植替え作業やその日々の管理が評価され、市の助成制度が創設されたほどであり、商店街の緑化のみならず市のまちづくりへも貢献している。 このほか、旧丸ビルの基礎杭に使われた松の木を再利用したフラワーポットや「蝶が舞うまちづくり」を目指した取組などには独自性がみられ、このように年中花が飾られる商店街ではゴミや自転車の放置が激減し、環境美化への貢献とともに、商店街にも空き店舗がほとんどない状態で、商店街の活性化へも寄与している。 こうした活動が全国的に評価され、近年は講演や指導に赴くなど普及啓発活動にも力を入れている。

[団 体]

ふ り が な 名 称	はなたかまち かい 鼻高町をきれいにする会
所 在 地	群馬県高崎市
代 表 者	会長 戸塚 実
功績の概要	本会は、地域の美化活動等を行う地元住民で構成されたボランティア団体である。 平成13年より市の事業により遊休桑園伐根工事を開始し、4年間で約5.6haを整地した。その桑園等の跡地を「鼻高展望花の丘」と命名し、1年を通じて変わり行く上州の山々の景色に合わせ、次々と花が楽しめるように花暦を作成し、約15種類以上の草花の栽培、農作物の肥培管理を行っている。春は菜の花、秋にはコスモスと年2回にわたって花祭りを現在まで引き続き開催している。さらに花祭りでのイベントに参加した一般市民等による体験農業、ハーブ等の栽培実習等を実施している。 また、地元小学校児童による芋掘りやひまわり等の種まきの体験学習も開催し、児童が自然に触れ合える場を提供、地域住民との交流を通じて児童の育成活動にも貢献している。 地域の緑化推進活動を行っていく中で、地域住民が自分たちで地元を守っていこうという意識が高まり、安全で住みやすく環境にやさしい地域づくりに大きく寄与している。

[団 体]

ふ り が な 名 称	ひゅうがし しぜん まも かい 日向市ふるさとの自然を守る会
所 在 地	宮崎県日向市
代 表 者	代表者 甲斐 誠二
功績の概要	平成9年に発足した同会の当初の活動は、市内の自然探索や調査等が中心であったが、平成12年からは「ひむかどんぐり千年の森づくり」として、市民や企業、行政が一体となって水を貯える「安定した森林」造りに取り組んでいる。 その活動内容は、どんぐりの種まきからカシ、シイ類の植樹、その維持管理等の一貫した照葉樹の森づくりであり、これまでの5年間で約4.5ha（45,000㎡）の面積を植樹してきた。この活動を運営してくために、「どんぐり株主制度」として誰もが自然の植生・常緑広葉樹を再生するために参加できる仕組みをつくっている。株主は毎年公募し、これまで延べ1,300余名が株主として資金協力をしている。 また、平成15年からは地球温暖化防止のための植樹活動の必要性や森林の働き等を参加者に説明し、地球環境問題を視野に入れた啓発にも力を入れている。さらに、平成16年9月には子供を中心に樹木の名前や特性を知ってもらう「子ども樹木博士」を実施。森林に親しんでもらいながら将来につながる森林保護の精神を養うため、今後も継続の予定である。

[団 体]

ふ り が な 名 称	ほんかわ ち く ろうじん れんごうかい 本川地区老人クラブ連合会
所 在 地	広島県広島市
代 表 者	会長 森原 清香
功績の概要	同会は、本川学区内の緑化・美化の推進を目的として、毎月約100名で河岸緑地や公園、道路で清掃や花壇づくり等の活動を昭和50年から約30年間にわたり行っている団体である。 特に、落葉期にほぼ毎日行っている公園等の美化活動や毎月1～2回行っている花壇の手入れなどの活動は、美しい環境の創出や快適に過ごせる地域づくりに大きく貢献している。 平成10年度からは市有地を借り受け、土いじりや園芸を通した健康と生きがいづくりの場として約160㎡の「老人クラブのお花畑」を整備し、チューリップ、ホオヅキ、キク、スミレなど四季折々の草花を数百株栽培し、住民の憩いの場として親しまれている。また、このお花畑で育てられた草花は、公共施設や地域の住民に配布され、緑豊かな環境づくりの住民意識の高揚にも貢献している。 同会は、平成14年度に「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞したが、受賞後もこうした地道な活動を継続的かつ献身的に行っており、本川地区の緑化・美化の推進に大きく貢献している。

[団 体]

ふ り が な 名 称	わ い け い け い え い び ー か ぶ し き が い し ゃ と う へ く じ ゃ う し ゃ Y K K A P 株 式 会 社 東 北 事 業 所
所 在 地	宮城県志田郡三本木町
代 表 者	事業所長 大寺 茂幸
功績の概要	昭和49年に日本の米どころとして有名な宮城県三本木町で操業を開始。 緑化の推進については社内に緑地管理の為の公園係（専従5名、平成16年1名増）を設け、工場緑化を積極的に進めている。工場敷地周囲は30mの緑地帯（樹木）とし、建屋周辺は5～10mの緑地（芝生）を整備している。また、工場東側の緑地帯（水公園）はビオトープ化の取組を行っており、従業員の憩いの場としている。平成14年以降の緑地の改善事項としては、正面入り口の芝生化、水公園芝生のところへのケヤキの移植がある。 地域との関わりとしては、工場周辺や公共施設の清掃ボランティア活動を行い、地域の環境美化に取り組んでいることや、工場内の公園や体育館、多目的グラウンドといった環境施設を広く一般に開放するなど、地域との交流を積極的に行っている。 以上のように、同工場の諸活動は地域住民からも高く評価されその功績は顕著である。

[学 校]

ふ り が な 名 称	ぎ ふ けんりつ ひ だ たかやまこうとうがっこう 岐阜県立飛騨高山高等学校
所 在 地	岐阜県高山市
代 表 者	校長 井上 隆
功績の概要	同校では、昭和48年の開校以来30余年にわたり、寒冷な厳しい自然環境の中で校内緑化に努めてきた。校地に5つの重点緑化ゾーンの構想を掲げ、開校当初から毎年卒業生の総意で記念植樹を行うなど長期計画に基づき緑化樹木の植栽を行ってきた。 また、緑化活動を情操教育の一環としてとらえ、校内緑化の充実を進めてきた。特に、緑地帯や樹木の草花等による校内装飾活動を生徒の学習活動に取り込み、緑を育て心を育てる教育を展開している。 平成15年の全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部において特選（文部科学大臣賞）受賞後は、「緑の募金」運動を実施したり、高山市森林・林業連絡協議会主催の森林に関する標語コンクールに全校体制で応募し1年生生徒の作品が最優秀賞に輝くなど、緑化意識の高揚を図り緑化を啓発する地道な活動を継続して進めている。 また、平成18年に第57回全国植樹祭が本県で開催されることに対して、同校で平成15年2月に「緑の子供会議」を開催し、積極的にかかわり、「子どもが主役の植樹祭」の中心的役割を果たす予定である。

[学 校]

ふ り が な 名 称	くまもと し り つ ひ が し の ち ゅ う が っ こ う 熊本市立東野中 学 校
所 在 地	熊本県熊本市
代 表 者	校長 松岡 謙二
功績の概要	同校は、８～９年前に諸条件が重なり、生徒指導上大変困難な時期があった。そうした中、熊本市立東野中学校『環境は人をつくり、育てる』を合言葉に始まった朝のボランティア清掃と花の植栽活動は、やがて生徒会を核にした日常的な学校環境緑化活動の輪となり、学校を変容させる推進力となった。平成14年の全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部において特選（文部科学大臣賞）受賞後は、県木のクスノキや市木のイチョウを、英文による「Q & A」方式を用いて紹介したり、「文学の小径」に著名人の俳句と生徒作品を並べて掲示するなど、学習機能としての緑化活動も展開している。定例の「木漏れ日コンサート」や「緑陰読書」は、緑豊かな中庭を心の響き合う空間に変えている。また、地域への苗の配付や清掃活動など学校から発信する活動は、PTAや老人会など地域の理解と支援を得て校内外に定着し、平成15年に「地域環境美化功労者（団体）」環境大臣表彰を受けた。 緑豊かな学校環境のほか、生徒一人一人に豊かな心の育ちが見られ、現在多くの生徒が誇りと自信に満ちた表情で潤いのある学校生活を送っている。

[学 校]

ふ り が な 名 称	さかたしりつとさかしょうがっこう 酒田市立十坂小 学 校
所 在 地	山形県酒田市
代 表 者	校長 近藤 直志
功績の概要	同校は、クロマツの海岸砂防林に囲まれており、平成10年晩秋の大雪による雪折れ被害を契機に、植栽や枝打ちなどの森林整備活動が始まった。 その後5・6年の児童が、総合的学習としてクロマツ林の歴史や働きなど1人ずつテーマを決め、学習を深めてきた。また、学習した成果や、植林の偉業を題材にした創作劇を文化祭や学習発表会で地域の人々に披露してきたことにより、地域住民全体に環境保全活動の気運が高まっていった。 農林水産大臣表彰受賞後の平成14年度には、森林所有者や地域の協力を得て、学区内の民有林に「学習林」を設定し、児童の呼びかけでPTAや地区住民などが参加した森林整備を行っている。 また、同校の取組がモデルとなり、近隣の5つの小学校に新たに「学習林」が設定され、その活動はクロマツ林を守り育てていこうとする市民運動へと広がりを見せている。 同校においても、学習林活動が低学年を含めた全校児童に広がるなど、活動が一層が活発化している。

[学 校]

ふ り が な 名 称	せとうちちょうりつにしあむるしょうがっこう 瀬戸内町立西阿室小 学 校
所 在 地	鹿児島県大島郡瀬戸内町
代 表 者	校長 末次 俊文
功績の概要	同小学校の取組は、地域住民と一体となり、心豊かな子供たちを育てることを目的とし、昭和38年より41年間の長年にわたり活動をしている。 「花いっぱいの学校」活動では、老人会、婦人会など地域団体と協力して学校、道路、公民館などの公共施設等へ植樹、樹木の剪定、育苗、花壇作り等をしたり、また、台風の襲来による被害の経験から、黄花コスモスやインパチェンスなどはプランターに植え、台風襲来時には、安全な場所へ移動させるなどの取組も行っている。 こういった活動は、地域の環境緑化・美化はもとより、高齢化の進行している同地区の活性化にも大きな貢献をしている。 現在、加計呂麻島の児童数4名の同校の小さな取組は、地域を巻き込んだ大きな環境の輪となり、児童、地域住民の一人一人の心の中に「環境の心」として大きく根付いている。 このような地域に根ざした良き伝統を守り育てながら、さらに地域の環境緑化、環境保全の推進に取り組んでいる。

[学 校]

ふ り が な 名 称	ながおかしりつかつらしょうがっこう 長岡市立桂小 学 校
所 在 地	新潟県長岡市
代 表 者	校長 中村 カズ子
功績の概要	同小学校は、花づくりを子供たちの「心の教育」に取り入れ、四季を通して地域の人々とともに花壇づくりを行うなど緑化活動を積極的に推進している小学校である。 また、近年では「花」に関するテーマを児童自らが設定し調査研究に取り組んだり、市内で開催される緑化関連イベントへ積極的に参加するなど、多彩な緑化活動を展開している。 平成15年度からは、旧校舎跡地（約7,000㎡）を「憩いの広場」とするため、整地から花壇、築山づくり、クヌギやウメの植樹など一年をかけて整備してきたが、平成16年の7月新潟・福島豪雨災害、同年10月の新潟県中越地震と二度にわたる災害に見舞われ、広場も大きな被害を受けた。 広場の復旧に向けて春を待ちわびる児童たちは、地区の小中学校と連携して「復興の春を花いっぱいにしよう！」を合言葉に、12月からチューリップの球根約7,800株をプランターに植えており、花づくりを通して、被災地の復興に向けた原動力としての活躍が期待されている。

[地方公共団体]

ふりがな 名 称	じょうえつしやすづかく 上越市安塚区 (旧安塚町)
所 在 地	新潟県上越市
代 表 者	上越市安塚区総合事務所長 山岸 孝丸
功績の概要	同地区は、新潟県西南部に位置する県内有数の豪雪地帯であるが、「雪と緑と人を活かした全町公園」をコンセプトに、住民参加による美しい農村景観づくりに取り組んでいる。 「花いっぱい」運動は、昭和60年からスタートし、現在では、各集落、家庭の花壇がその美しさを競っている。また、色とりどりの一年草や宿根草を組み合わせた全長20km以上にも及ぶフラワーロードは、地域住民の生活に「うるおい」や「安らぎ」を与えるだけでなく、訪れる多くの観光客を楽しませており、中でも秋に咲く柳葉ヒマワリは平成16年には100万本を超えた。 緑化運動における植栽、灌水、除草などの管理作業は住民が中心となっており、地域リーダーの存在、住民の熱意、協力により年々発展を遂げている。 さらに、平成12年度から休耕田を活用した「安塚フラワーパーク」の整備にも取り組んでおり、初夏にはハナショウブやカキツバタなど、約20万本が咲き誇る新たな観光名所となっている。

[地方公共団体]

ふ り が な 名 称	なるこちょう 鳴子町
所 在 地	宮城県玉造郡鳴子町
代 表 者	町長 高橋 勇次郎
功績の概要	鳴子町は江合川の最上流に位置し、大崎耕土の水 源確保及び水源涵養のため、保安林の指定・改良・ 保全を昭和の初期から行ってきたこと等により、昭 和54年に水資源功績者表彰を受賞した。 その後近年では、平成6年度に町制40周年を記念 し、全町民及び流域住民によりオオヤマザクラ・ケ ヤキ等の広葉樹約4,000本を植樹し森林保護意識の 高揚を図った。翌年度からは中学校卒業記念植樹と し約1,000本の広葉樹を植樹する等、継続的な植樹 活動に発展させ緑化思想の普及啓発に大きな成果を 上げている また、平成6年度に上水道の水源の森 が伐期齢に達したことから皆伐され、水量不足にな るという事態が発生したことを契機に、「不伐の森 づくり」として町民はもとより流域の住民の協力を 得て平成8年からブナやトチノキ等の広葉樹約 18,000本を植樹するとともに、その後の保育、下刈 等の作業を通じ、森林の大切さの理解、普及啓発に 大きく貢献している その後も活動範囲・活動内容を順次拡大しており 水源の町としての緑化活動は、他の模範として大い に評価されている。

[地方公共団体]

ふ り が な 名 称	はままつしいなさちいき じ ち く 浜松市引佐地域自治区 (旧引佐町)
所 在 地	静岡県浜松市引佐町
代 表 者	浜松市引佐総合事務所 所長 市川 賢
功績の概要	浜松市引佐地域自治区は、旧引佐町町民憲章で「緑と花の引佐をつくります」と緑化活動を位置づけ、「緑と花の町」をキャッチフレーズとして、町民総参加による花のように美しく咲き合うまちづくりを実践した活動により、平成10年の自治大臣表彰を受賞した。受賞後も「みどりと花のまち推進事業」を中心とした各種活動を継続して行い、緑化推進に努めている。 具体的には、花で満ちあふれ、潤いのある町が継続されるよう「育苗研究会」や「いなさガーデンセンター」から毎年、年間15万以上の花の苗が公共施設等に供給され、昭和39年設立の現在会員数が550名を超えた「花の会」で、この苗の植栽や花の管理等を実施し、区内の花が絶えないようにしている。また、幼稚園や小中学校16か所が指定されている「花のモデル校」にもこの苗が供給され、子供たちが花の栽培を通じて、自然と花を大切にする心が育成されるように取り組んでいる。 さらに「花のまちコンクール」や「緑化フェア」を継続的に開催し、区民の花によるまちづくりの意識向上を図り、区全体での緑化推進に努めている。

[地方公共団体]

ふ り が な 名 称	やまがわちょう 山 川 町
所 在 地	鹿児島県揖宿郡山川町
代 表 者	町長 東 孝一郎
功績の概要	温暖な気候を利用した花木栽培が盛んであり、花にちなんだテーマパーク等の各種施設も立地している。このような恵まれた環境を最大限に活かした個性的なまちづくりを目指そうと、平成元年、「花のまちづくり整備基本計画」を策定し、町民総ぐるみで花のまちづくりに取り組んでいることにより平成12年の自治大臣表彰を受賞し、引き続き緑化に係る取組を実施している。 具体的取組としては、花と出会う町山川町として、主要道路への花木植栽や老人クラブ、子供会等による花壇の管理、町内各学校等の花いっぱい運動などを継続的に実施していることはもちろん、日本で一番早い春の訪れを全国にPRするため、「山川町フラワーフェスティバル」を開催している。 また、「花と緑のコンクール」を継続的に開催し、町民の意識向上を図るとともに、ホームページ等にも随所に花をモチーフとした題材を取り入れ花の町山川をPRし、「花狩り」、「花誘便（郵便）」など花を活用したまちづくりに取り組んでいる。